

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：科学者は災害軽減と持続的社会の形成に役立っているか？

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

- ・主催：日本学術会議
- ・後援：日本地球惑星科学連合、地理学連携機構、防災学術連携体

3 開催日時：平成 28 年 11 月 13 日（日） 13 時 00 分～17 時 30 分

4 開催場所：日本学術会議講堂

5 開催趣旨：

地球環境問題の深刻化と大規模災害の増大の中で、それらに関連する研究に携わる科学者は「社会のための科学」を意識しつつ研究している。しかし学術的に優れた研究をすればそれが即社会のためになり、社会に評価されるかという点、必ずしもそうではない。そこで本学術フォーラムで、災害の軽減と持続的社会の形成に向けて努力している研究者がそれぞれの立場で取り組んでいる研究課題とその社会的意義、社会との関わりにおける疑問や訴えたいことなどを紹介し、参加者との間で意見・情報交換と意思の疎通を図る。

6 参加人数：91 名

うち講演者等：18 名（講演者等 13 名、スタッフ 5 名）

7 特記事項：

- ・メディア 2 社から 1 名ずつの参加者があった。特別な取材依頼はなかった。
- ・1 月～2 月に開催予定の地球人間圏分科会で報告すると共に、同分科会で作成中の提言に活かす。
- ・一般参加者の約 7 割にあたる 53 名からアンケートの回答を得、大変良かった 49%、まあまあ良かった 41%、あまり良くなかった 2%、全く良くなかった 0%、無回答 8%だった。このテーマでフォーラムがあればまた参加したいとした人は 74%にのぼった。
- ・災害・地球環境関係の集会の常だが、女性の参加者が約 2 割と大変少なかった。
- ・9 名の中学生・高校生が参加し、良い質問をし、アンケートにしっかりと答えてくれた。
- ・参加者数は前々回(H24 年)、前回(H27 年)の地球人間圏分科会提案のフォーラムよりも減少しているが、参加者の満足度は高いので、これからも種々工夫しながら続けたい。